

私のおすすめスポット

会員 丸山 晃平（三条市在住）

千眼堂吊り橋

みどりの中でひときわ目立つ赤い吊り橋、秋には紅葉につつまれます。新潟の橋50選の一つです。

この橋は国上山にある朝日山展望台から良寛さんが住んでおられた五合庵へ渡る近道にあります。今から22年前、ふるさと創生金1億円で建設された長さ124メートルの吊り橋です。

国上山には越後一の寺・国上寺（こくじょうじ）がありますが、越後一の宮・弥彦神社と並び古い歴史を誇っております。

昨年から国上寺、五合庵、吊り橋等を巡る国上・良寛史跡周遊ガイドが、スタートしております。みなさまにおすすめです。



イベント案内

第2回河川文化講演会

信濃川の水害に苦しむつつも、世界に誇る洋食器の町に発展させた燕の歩みについて、大河津分水工事との接点も交えてお話いただきます。

演題：燕の産業と信濃川・大河津分水（仮題）

講師：燕市産業史料館 学芸員 斉藤優介さん

日時：平成26年3月15日（土）14:00～16:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加申込みは事務局まで。（事業部）

平成26年度年次総会

平成26年度年次総会を、下記の通り開催する予定です。詳細は別途お知らせします。（事務局）

日時：平成26年5月24日（土）14:00（予定）

場所：大河津出張所 1F ホール

平成26年度第1回理事会

平成26年度第1回理事会を、下記の通り開催します。詳細は別途お知らせします。（事務局）

日時：平成26年5月10日（土）13:30（予定）

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

事業部会・支援部会・広報部会

各部会を下記の通り開催するので出席をお願いします。部会終了後にお花見会を開催します。

日時：平成26年4月19日（土）9:30～11:30

場所：大河津資料館

※参加可否を事務局まで連絡して下さい。（事務局）

お花見会

希望者によるお花見を開催します。昼食弁当を肴に、分水公園の桜を愛でてみませんか。

日時：平成26年4月19日（土）12:00～

場所：大河津分水公園（雨天中止）

※参加申込みは事務局まで。（事務局）



お茶を楽しむ会

おいらん道中にあわせ、先着450名に抹茶とお菓子を振舞います。お出かけ下さい。（事業部）

日時：平成26年4月20日（日）

11:00～無くなるまで

場所：大河津資料館 4F 展望室



俳句を楽しむ会

分水を詠む。俳句を楽しむ会を開催します。10回目の今回が最終回です。この機会に是非一句。

日時：平成26年6月7日（土）13:00～15:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加申込みは事務局まで。（事業部）

特別展「そうだったのか?!大河津分水の桜とおいらん(仮題)」

あでやかに歴史を刻んできたおいらん道中と桜の物語を、実物の衣装や写真などで振り返ります。

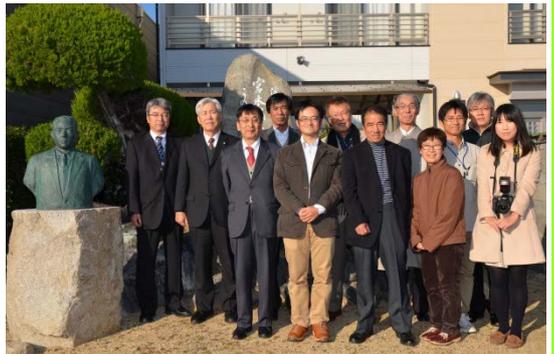
日時：平成26年4月1日（火）～4月30日（水） 場所：大河津資料館 1F,2F

主催：燕市観光協会・NPO法人信濃川大河津資料館友の会（事業部）

宮本武之輔を想う—宮本の故郷愛媛県松山市を訪れて—

2013年11月24～26日、「宮本武之輔を偲び顕彰する会」に招かれて、本会理事の樋口勲と共に松山市を訪れて、宮本武之輔について講演してきた。その講演の準備は簡単なものではなく、かなりの時間を要したが、題名を「技術者 宮本武之輔 その為した仕事と意思の丈を量る」とし何とか果たすことを得た。

私達は24日の朝、長岡を上越新幹線を出発した。その先、羽田から松山まではジェット機で一飛び2時間弱の旅である。私は長岡に来る前、1973年から8年間、松山から見て瀬戸内海の対岸、広島県呉市に住んでいた。瀬戸内海沿岸、そこは昔と変わらずまぶしい日差しが波間に揺れていた。



宮本の生まれ故郷は、松山市内ではあるが、2 kmほど沖合の興居島(ごごしま)というところである。松山空港に到着後、私たちは松山の人達の案内で直ちにその島を訪れた。島には記念碑と銅像、そして墓があった。その銅像は2012年、松山の会の人達の努力により建てられた高さ50 cm程の胸像(写真)であり、いかにも故郷に帰った思いを映すように穏やかな表情であった。なお、友の会会員の松井ヒロご一家も昨春、ここを訪れたそうである。

松山の会の人達はそんなに大勢ではないという。でもいろんな人たちがいるようであった。会長は高専の先生、ほかに国、県、市の公務員、また一般の方々もおられ、夕食は漁協の組合長の肝いりで、ご指定の店でぶりのしゃぶしゃぶ(美味最高!)がメインディッシュであった。こちらからは長岡の清酒をお土産に持参し、みなさんに大変に喜ばれた。

宮本は確かに優秀な若者であった。故郷松山を出て上京し、第一高等学校から東京大学工学部土木工学科へと進んだ。彼はそこを首席で卒業する。このように勉学の上で優秀であったのに加え、猛烈な読書家であったことも知られている。

大学を卒業後直ちに内務省に就職する。荒川改修工事などに従事した後に、1927(昭和2)年、陥没した自在堰の補修のために、期待を一身に背負って新潟土木出張所信濃川補修事務所に着任するのである。当時上越線はまだ開通していなかった。彼が上野から乗車した列車は、碓氷峠を越え、直江津を経て新潟まで、実に12時間かけて到着したのであった。現場は新潟から列車でさらに2時間近くの分水である。宮本はここに補修事務所を開設した。

宮本を支えた大学卒の技術者は僅かに2人、事務所は5工場を含め、所員は事務系を含めて総勢62名。この陣容で可動堰と床固等の付帯工事の設計、資材の発注、組み立て、据え付け一切を行い、あの大工事を4年間で完成させたのである。一体その成功の秘密は何処にあったのか。失敗は許されないという使命感、基礎に鋼材をふんだんに使い、コンクリートの質も吟味したというレベルの高さ、そして宮本のリーダーシップがその“鍵”であったのに違いない。

樋口はまた語る。成功のカギの一つは、宮本の地元の人たちへの熱い気配りにあった、と。樋口はそれを以下の3項目にまとめている。1)困った人を助ける、2)頼まれたことを断らない、3)垣根を作らない、である。

1931(昭和6)年、宮本は完成した可動堰を後に東京に帰る。齢未だ40歳である。彼はその後、技術者のリーダーたらんとして活動するが、49歳にしてこの世を去る。日米開戦の知らせを聞いた後で、である。私が瀬戸内海を後にしたのは在住8年後42歳の時であった。技術者としての自覚、宮本に及ばざらんを如何にせん。

松山の人たちは熱烈な宮本ファンである。宮本のことについて実によく勉強している。宮本は愛媛県に対して左程の貢献を為したとは思えないのに、である。それは、強烈な郷土愛と人間愛がそうさせているようである。この地の英雄として知られているのに、日清日露戦争で活躍した秋山兄弟というのがいる。松山には二人の銅像を初め、記念館また二人を描いた画像など、いたるところで見ることができる。その兄弟も愛媛県に富をもたらしたというより、日本を救ったということなのであろう。とにかく松山の人達の、郷土の偉人に寄せる思いは格別のものがある。それはインターネットで“松山の偉人”で検索するとすぐわかる。この松山の人達の志に、とにかく心打たれた旅であった。



資料館内に「友の会コーナー」がお目見え

資料館1階ホールに友の会の掲示板を設置しました。友の会のイベント情報や会員募集案内などを掲示しています。コーナーの活用方法などについて、提案をお待ちしています。(事務局)



新たな展開に向けて～信濃川水系河川整備計画への期待～

副理事長 小林 清

「大地に恵み、人に安らぎ」の願いを託した世紀の大人工河川信濃川大河津分水工事の完成により、めざましい発展を遂げ続ける越後平野。長年にわたる成果を維持しながらも老朽化の著しかった洗堰、可動堰は一新されました。そして1月6日、百年にも及ぶ歴史的な一大治水事業に続き、新たな展開となる画期的な「信濃川水系河川整備計画」が策定されました。

今後30年間を目途に「戦後最大規模の洪水」に対応する河川整備を行う事とし、流下能力の向上に最大の課題であった河口部の山地部拡幅による大河津分水路の改修が、中核且つ優先事業として位置付けられました。又、河川の有する自然環境、景観の保全、地域の個性と活力等を生かした地域づくりと一体となった川づくり等多くのソフト対策が盛り込まれました。

洪水の恐怖に肝を冷やししながら、県都新潟市のめざましい発展の礎として、誇りと自信をもって大河信濃川と苦楽を共にしてきた私共沿線地域住民にとって、この抜本的な整備計画の策定は、本当に永年にわたる悲願であり、積極的な要請運動の大きな成果であります。

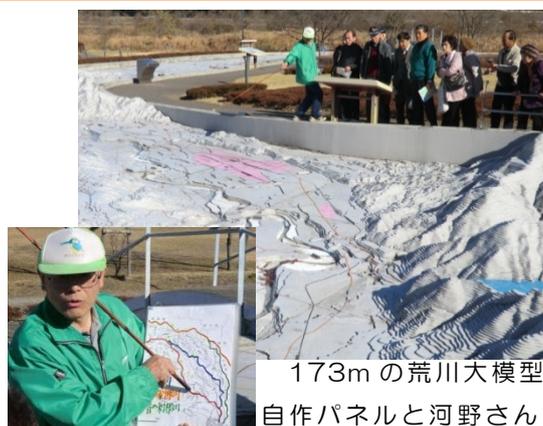
このまさに歴史的な整備計画、水系が有する環境や景観、地域の個性、川づくりと地域づくりを共有する地域住民との連携を最大に生かした、正に日本一の大河信濃川にふさわしい各事業を強力に推進すべきであり、懸案の山地部拡幅事業の一日も早い着工を望むものです。

また、広大な越後平野を守る分水路右岸堤防については、新可動堰事業が完成してもなお、その役割は益々重く、優先的な強化対策を切に期待するものです。

第3回ガイド研修～かわはくでガイドを学びました～

12月1日(日)7:30～18:00 参加者：23名

資料館運営員研修として、埼玉県立川の博物館のボランティアガイドを学ぶことができました。通称「かわはく」は平成9年に開館した荒川の博物館。1/1,000荒川流域模型と大水車が名物です。当日はかわはくボランティアの会広報部長奈良さん、河野さんから流域大模型をガイドしていただきました。自作のパネルと釣竿のような差し棒を用い、魚と地形地質というそれぞれの得意分野の話題をふんだんに盛り込んだガイドは、聞く者を飽きさせません。資料館ガイドに活かせるヒントをたくさんいただいた有意義な研修会となりました。(支援部・事務局)



173mの荒川大模型
自作パネルと河野さん

「信濃川をきれいにする会」に加盟

信濃川の清掃・美化に取り組んでいる信濃川をきれいにする会(会長：篠田昭新潟市長)への加盟が12月25日に認められました。同会は信濃川下流域の河川敷地清掃活動等を通じて美しい河川環境の創造と、社会道徳の向上に寄与し、あわせて会員相互の意見交流の場とすることを目的に、平成7年に発足しました。ボランティア団体、河川に関わりのある団体、関係自治体など47団体が加盟しており、国土交通省信濃川下流河川事務所が事務局となっています。友の会のクリーン作戦や庭木剪定などを信濃川をきれいにする会活動の一環と位置付け、地域に貢献していきたいと考えています。一層のご協力をお願いします。(事務局)



資料館前の高水敷造成が進んでいます

洗堰分派点から可動堰までの主流線を、河川中央に導くための大規模な高水敷造成が進められています。資料館からの満々と水を湛えた信濃川の眺めが、今大きく変化しています。





団体会員 ご紹介 我ら大河津分水応援隊！

大河津分水の地元建設業者として

株式会社 中元組

NPO 法人信濃川大河津資料館友の会の皆さん、初めまして。団体会員の(株)中元組です。当社は大河津分水路の地元、長岡市寺泊に本社を構えている会社です。治水の重大な使命を担う大河津分水路の地元建設業者として、分水路の開設以来、今日に至るまで、治水機能を維持していくための幾多の災害復旧工事や維持補修工事に携わってまいりました。

近年、経験したことのない豪雨が日本の各地で発生し、災害をもたらしています。この豪雨に対応するべく、近々、念願の分水路の大改修が始まるとのこと。越後平野には高速道路・新幹線といった重要交通網、三条市・新潟市の発展等、越後平野は水害防止の必要性が年々と高まっています。大河津分水の役割と大改修の意義を多くの人たちに理解して戴くためにも、信濃川大河津資料館のさらなる発展が望まれます。

また、大河津資料館周辺は桜の景勝地としての観光の地でもあります。分水路の大改修と同時に、一大観光地となるような環境整備にも期待したいものです。

そのためにも、NPO 法人信濃川大河津資料館友の会の皆さんの益々の活躍を期待致します。当社も会員の一員として、微力ながら協力して行きたいと思っています。また、やがて始まるであろう、大改修事業の一翼を担えるような企業でありたいと努力していく所存です。

地域と共に創業 60 年、会社設立 40 周年

株式会社 廣瀬

弊社は、おかげさまで昨年に創業 60 年、会社設立 40 周年を迎えることができました。これも地域の皆様から支えられた事と心から感謝しております。これからも創業 100 年を目指し地域の発展と共に努力邁進していく所存でありますのでよろしくお願いいたします。

建設業はバブル経済崩壊により衰退の一途をたどってまいりました。弊社は、民間建設工事にも重点を置くことで、公共工事の減少を補い、リストラもせず雇用を守ってまいりました。また子会社も設立して地域社会が必要とする事業でもある環境リサイクル事業、高齢者福祉事業にも進出し業績を上げてまいりました。昨年は子会社を含む「廣瀬グループ」として第 30 回新潟県経済振興賞という大変名誉な賞をいただくことができましたが、これも地域の皆様の支援があつての事と重ねて感謝すると共に身が引き締まる思いであります。

弊社創業の先代社長は、大河津分水路下流域である信濃川支流中ノ口川左岸に広がる旧黒崎町を中心に治水事業の大切さ、ありがたさなどを感じながら、農業土木を進めてきたものです。時代を経て、弊社設立ののち 30 年ほど前に初めて直轄工事である築堤工事を受注させていただきました。今現在、大河津分水路事業にも参加させていただいております。

また、最近の報道によれば「信濃川水系河川整備計画」が策定され、「優先的に進める」と位置づけられた大河津分水路の河口部の拡幅を初めとする水系全体の洪水処理能力を上げることや、弊社としても係わりのあつた中ノ口川が新潟県管理から国管理化へ移行されるべく検討されようとしています。

これからの歴史的な計画が一日も早く事業化されることを心から願っているものです。

また弊社がこの歴史的な事業に参加させていただけるよう日頃から技術の研鑽に努め、その期待に応えられるよう努力を致したいと思ひます。

NPO 法人信濃川大河津資料館友の会が「信濃川水系河川整備計画」の策定を機会に啓蒙に一層活躍されることを期待すると共に、私共も一定の協力をさせていただきたいと思ひます。今後共、宜しくお願いいたします。

＜編集後記＞年が明けて早一月余、みなさまには如何お過ごしでしょうか。今年も友の会活動への参加、協力をよろしくお願い致します。信濃川水系河川整備計画が 1 月 6 日に正式決定しました。分水路抜本改修は動き出すのか、小林副理事長から熱き想いを寄せて戴きました。かわはく名物の一つ「鉄砲堰」は、切り出した木材を水力で里に運ぶ仕組み。木製の堰を壊し一気に水を流す実験を館内で行うスケールがすごい。館内には子供たちが実験で遊ぶスペースも。一見の価値有りです。全国一斉水鳥調査の渡辺央先生と資料館でばったり。日く河川敷に池があると一…。分水は風景だけでなく鳥たちの環境も変貌中です。(n)

＜事務局連絡先＞

〒959-0123 燕市大川津 1215-7 TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682
e-mail: ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp <https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>